

## 学校評価 上期結果

	項目	回答結果から見える成果や課題
心の教育	1 基本的な生活習慣の確立	「あいさつ」については、保護者や児童はできているという評価が多かったが、職員の自己評価はあまり高くなかった。(あいさつ指導の必要性)
	2 豊かな人権感覚を育成する指導方法等の工夫・改善	生活目標の意識化については、生徒指導部会での提案が適切であり、学校総体で意識付けができた。 職員と児童の人間関係は良好であり、昨年度の上期より数値が向上している。
	3 (特別の教科 道徳)における議論する道徳の充実	道徳の授業では、学んだことの生活化ができていないと回答した児童が20%存在する。今後は「学び、議論する」授業を実施し、熊本の学びを支える基盤をつくる。また、効果的なGT活用も推進していく。
	4 縦割り班活動の積極的な活用、集会活動の効果的な運営	縦割り班活動の積極的な活用、集会活動の効果的な運営については、職員及び保護者の評価は概ね良好であったが、児童は23%ができていないと回答した。児童が実感を伴う活動運営に努めていく。
	5 積極的な生徒指導の推進	「是は是」「否は否」について全体的に数値が低く、特に保護者は昨年よりも低下傾向が強い。今後の重点指導項目としての取組を行う。 いじめ・不登校対策は、昨年より全体的に数値が向上している。今後も安心と信頼にあふれる、高め合う人間関係(含学級)づくりに努
健康・安全教育	6 体力向上を図る取組の推進	体力を高める取組の推進がやや低位にある。体育の時間を核として外遊び等の奨励を図っていく。
	7 交通ルールの遵守と登下校のルールの徹底	安全な生活や環境作りでは、職員と児童の意識の温度差が伺える。一人一人が確実に定着できるよう粘り強い指導を継続する。
	8 早寝早起き朝ご飯の推進と食育の充実	健康・安全教育については、学校と保護者が連携し、協働しながら行うことで、更なる数値の向上が期待できる。
生きる力の育成	9 「熊本の学び」の推進	熊本の学びの定着は8割程度にとどまった。特に、児童が学習の見通しをもつことや自分なりの問いを立てる授業づくりを推進する。校内研修の視点である「考えをもつ」「考えを発表する」を意識した研修の充実を図り、児童が主体となる授業を実践する。
	10 外国語活動と教科との連携を図った目標の提示とコミュニケーション能力の素地・基礎の育成	外国語(活動)では、児童の3割が学びを得ているという時間がない状況にある。昨年度までの研修の成果を生かし、児童が英語が「楽しい」「わかる」「使いたい」という意識を高めていく。
	11 自主的な清掃活動と清掃活動の徹底	児童の自主的な清掃活動は、できていない実態が見受けられるが、児童の意識では90%は「できている」と感じている。ゴールの姿を職員と児童が共有して指導を継続していく。
	12 読書活動の推進	読書活動の回答は全体的に低い結果となったが、年間の貸し出し冊数は各学年とも順調に伸びている。読書習慣の二極化も見えてきたので、個別の対策を講じるとともに、読書環境の更なる整備を行う。
社会に開かれた学校	13 社会に開かれた教育課程	学校版環境ISOがあまり定着していない現状にある。定期的な進捗評価と児童への意識付けを行いたい。特に児童会が主体となった取組を意図的に設定していく必要がある。 ボランティア活動は前期の後半から実働したが、結果はまだ低位にある。児童の意識を高める働きかけをしっかりと行うことが求められる。 学級通信や学校便り及びホームページを活用し、保護者や地域関係者へ学校の教育活動の発信ができています。今後も継続し、地域に開かれた学校を目指す。 ここ数年「ノーテレビ・ノーゲームデー」が町全体でできていない状況である。携帯端末等を含めて「ノーメディアデー」については、PTAで再考して行く予定である。
その他	14 学校改革の取組	勤務時間の縮減は、概ね良好である。上限時間を守る事が目的にならないよう、職員に働きかけていく。 不祥事防止に対する取組も適切に行うことができた。タイムリーで心に響く不祥事防止対策を継続していき、本校から不祥事は絶対に起こさない基盤をつくる。